

嬉 望

第 14 号
平成 26 年 1 月 22 日
兵庫教育大学
教職大学院
学校経営コース
大学院生編集部

「嬉望」は、本学加東キャンパスが嬉野台地区にあることと、「希望」とをかけた造語です。



大学マスコット

学びの集大成の季節



明けましておめでとうございませう。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、本コース 2 年生による学校・教育行政機関改善プラン発表会が、来る平成 26 年 1 月 25 日(土)及び 2 月 1 日(土)、本学加東キャンパスにおいて開催されます。

二年間の学びの集大成としての発表となります。目下のところ、二年生は最終調整に余念がありません。また、関係者の皆様には、当日もお世話になります。

さらに、一年生が実施している課題研究「学校経営事例研究・教育行政機関事例研究」の発表が、去る 1 月 10 日(金)から始まりました。学びの総決算の時期となりました。



静岡大学教職大学院からの視察

一年生の課題研究第一回目の発表に合わせて、静岡大学教職大学院より武井敦史教授を始めとする 6 名の方が視察に来られました。発表を見られ質疑やご意見をいただくなど、大変有意義な交流になりました。今後とも、様々な形で教職大学院相互の交流が図られ、切磋琢磨していけることを期待しています。



静岡大学教職大学院のみなさま

秋田の教育の秘密を探る！

P1 柏崎さんの発表

去る 12 月 19 日(木)、「秋田の学力を支える要因を考える」とのテーマで、一年生の柏崎さんによる学習発表が行われました。他コースの院生も聴衆として参加し、熱のこもった会となりました。

発表の中では、当たり前前のごことを全県で徹底してやり抜くことの大切さを、具体例を交えて話されました。優れた事例の交換に大いに刺激を受けました。

「お互いの現任教をもつと見に行こう」と浅野先生はよく話されます。身近な学習資源を自主的に交流し合うことの大切さを痛感しました。



ゲストティーチャー 情報

共同通信大阪社会部

真下 周氏

教育法規の理論と実務演習

12 月 17 日(火)



メディアから見た学校教育の実相を知るため、共同通信大阪社会部の真下 周氏を講師にお招きし、「大津中 2 いじめ自殺から考える」と題して、講話をいただきました。

真下さんは、神戸新聞の連載記事「いじめ しまい込んだメッセージ」を取材・執筆なさいました。関係者への取材を基に書かれた記事を通じて、いじめ自殺の問題の所在を明らかにするとともに、学校における指導のあり方や学校文化の見え方等についても世論に問題提起されました。

私たち教員が当たり前だと思っていることを社会がどう受け止めているのかという点について、再認識することができました。

フィールドワーク情報

「しゃべってみよう」八王子市南大沢地区「熟議」その 2
平成 26 年 1 月 11 日(土)
於：八王子市立南大沢小学校

9 月に同市南大沢中学校にて実施した「熟議」に続いて、本学院生一年 5 名がファシリテーターを務め、その第 2 回目を実施しました。9 月の「南大沢地域の子どもたちが、どんな人に育ってほしいか」という話し合いを受け、今回は「私たちがどんなことができそうか」をグループで討議しました。

学校・地域・学校運営協議会委員など、それぞれの立場から出された案を KJ 法で可視化しました。「学校は地域のものだ。民意の具体的な総体が、教育課程として結実する」と本学の日渡教授が総括されました。活発な意見が交わされ、相互の関係の深まりを実感しました。



特集

平成25年度
全国市区町村教育長セミナー

12月21日(土)・22日(日)・23日(月祝)、神戸ハーバーランドキャンパスを会場に、本年度の全国市区町村教育長セミナーが開催されました。本学院生にとりまして、貴重な学びの機会となりました。本号では三日間のセミナーを振り返り、総括します。



【第一日目 21日(土)】

開会にあたり、加治佐学長、兵庫県教育長があいさつの中で、制度の変遷はあっても、ますます高まる教育長の役割について触れられました。

**○講話「経営とリーダーシップ」
アフラック創業者・最高顧問**

大竹 美喜 氏

アフラックの大竹美喜氏からリーダーシップについてお話をうかがいました。リーダーは「リスクの請負人」。失敗を重ねなければ進化は生まれない。

また、世の中の変化はまだまだ続く。次代を担う人財とは「新たな価値を生む人、世界の人と協働する人、多世代とのコミュニケーションができる人」である、との言葉が印象的でした。



**○講話「近年の教育政策と課題」
文部科学省初等中等教育局長**

前川 喜平 氏

文部科学省 前川局長からは、今年度実施された教育再生実行会議で出された第四次提言までの概略を基に、教育長として押さえておきたい今後の潮流について、お話をうかがいました。特に教育委員会制度に関しては様々な議論が交わされ、再生会議と中教審との整合性等、今後の動きに注目すべきであるとおっしゃいました。



○情報交換会

夜は会場を移し、情報交換会が行われました。

【第二日目 22日(日)】

**○講話「首長から見た教育行政」
北海道美瑛町長 浜田 哲 氏**

少子高齢化に伴う農業人口の減少など、小規模自治体の現状を基に、いかに小さな町が生き残るかという点を中心にお話をいただきました。

教育行政に関しては、「教育は地域づくりの大事業である」ということや「人材を育てられる町になることが重要」ということを今後のビジョンとして浜田町長は語られました。



○講話「教育委員会制度改革の今後」放送大学教授・東京大学名誉教授 小川 正人 氏

中教審における教育委員会制度について概観し、現在の状況をとお話しいただきました。

「諸々の政治的判断も迫られた中、教育委員会制度は存続。どのような案になっても、教育長の責任と権限は重くなる。重要な情報は委員と共有し、首長とやりあうべきだ」と小川先生。制度に対する期待感を受け止めたい、とのお言葉でした。



○講義・演習「ビジョン策定の視点」兵庫教育大学教育行政能力育成カリキュラム開発室・(株)リクルートマネジメントソリューションズ(毎野正樹氏・石橋 慶氏)

小グループによるケース演習を行いました。『ある状況に置かれた小春町(架空の町)に教育長として着任したら、何に取り組むか』というワークテーマに取り組むものです。グループごとに活発な意見交換が行われ、考えが深められました。

演習の主な目的は、教育長としての対課題応用力・情報収集力を高めることにあります。さらに今後の教育長の能力育成カリキュラム開発にもつながっていくことと思われます。



【最終日 23日(月祝)】

○全体協議「これからの教育と教育長としての役割」

パネリスト：青森県弘前市教育長 佐藤紘昭氏 / 大分県九重町教育長 古後粒勝氏

ゲストスピーカー：東京大学大学院教育支援コンソーシアム推進機構 副機構長 三宅なほみ氏

本学 日渡 円 教授のコーディネートのもと、今後の教育や教育長としての役割について協議しました。

まず、パネリストとゲストスピーカーからご自身の取組例を紹介していただきました。

続いて、現実的には進んでいない学級数・教員定数の地方教育委員会による決定の実情について、意見交換が行われました。法改正の意味をかみしめたことへの認識が出され、今後の課題も明確になりました。



閉講式では、このネットワークを今後も大切に、さらに学びの輪を広げたい...その想いを一同で共有しました。全国各地からご参加いただき、本当にありがとうございました。